

啄木ゆかりのカルタ寺

本行寺の門信徒会報

— 来た道・ゆくと道 —

第83号

2024年8月1日



FMくしろヘリング

本行寺門信徒会 釧路市弥生2丁目 TEL 41-5329
<http://www5.ocn.ne.jp/~hongyou/>
 E-mail hongyouji@poppy.ocn.ne.jp



今回の表紙は先日行われた釧路市仏教会花まつり灌仏会（カンブツエ）法要の様子です。今年は特別ゲストとしてタレントの山田邦子さんをお招きいたしました。

第1部の灌仏会法要は仏教会会長の定光寺大道住職の導師に観音経が厳かに勤められ、第2部の特別講演では山田邦子さんが、ご自身の癌との闘病生活を混じえながら、笑いあり涙ありのトークで会場を沸かせ法要に花を添えていただきました。

この花まつり法要は言わずと知れた、今から三千年前にインドにお生まれになられたお釈迦様のご誕生をお祝いする法要のことです。ご誕生の地がインドのルンビニーの花園であったことと、時がいのちの萌え出る春であったことから「花まつり」と呼んで、全国各地の仏教寺院や仏教会でお祝いをしております。

釧路では現在の仏教会の前身である釧路市仏教協和会（定光寺、大成寺、法華寺、西端寺、鮮明寺、聞名寺、本行寺の7ヶ寺）の頃から行われており、今年で

花まつり



本行寺 住職
菅原 顯史

92回目となります。戦前は、厳島神社のお祭り、市民体育祭、そして花まつり、と釧路の三大祭りの一つとして数えられるほど釧路市民の皆様にも定着していたようです。

九十二年もの長い間に渡って受け継がれてきた釧路市仏教会花まつり法要を皆様と共にこれからも大切にお勤めしてまいりましょう。合掌



今 生きること



本行寺門信徒会 会長
種市 顯治

「四苦八苦」とは生まれ、老い、病み、死ぬこと。説法でよく聞く言葉です。

生まれたものは必ず老い、病み、死にます。しかし私たちは、若く健康で生きていることがあたりまえと考えてしまいます。そこにギャップが生まれ、思いどおりにならず悩みます。

皆さんも多少の違いはあっても何らかの悩みを持ち苦悩と闘っておられるのではないのでしょうか。

私は九〇才を目前にした今、「生きるとは？」と問い直した時に、今生きている、支えられている「今」を喜ぶことが、いかに大切なことなのかを思い知らされています。

自分もいずれは「死」を迎えると思うと、不安と怖さが頭をよぎります。だとすれば、今を精一杯生きること、に専念することが大切と考えます。

私たち門信徒は、念仏者としての生き方として、お寺に足を運び、法話を聴く機会を多く持つこと。門信徒（仲間）と語り合う機会を持つこと。このことを通して、心のよりどころとしての場所が、お寺であることを体感する事が大切です。「今、生かされている」喜びを分かち合いましょう！ 合掌

新しい「領解文」 (浄土真宗のみ教え)

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来「つゆえ」
「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といたたいて

この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と

法灯を伝承された 歴代宗主の
尊い教導に よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しすつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々 精一杯 つとめます

行事・事業計画案

令和6年

4月10日

会計監査

4月16日

役員会

4月20日

恋活IN本行寺：6月に延期

5月16日

定期総会（常例法座終了後実施予定）

5月18・19日

北海道教区親鸞聖人ご誕生850年慶讃法要

6月16日

本行寺門信徒会団体参拝旅行（於本願寺帯広別院）

6月16日

会報部会（会報の件）

6月16日

初参式

7月10日

特別講演会

7月30・31日

キッズサンガ寺子屋子どもの集い

8月15・16日

孟蘭盆会法要

9月23日

秋の彼岸法要

10月15日

報恩講準備（莊嚴・お磨き・清掃等）午後

10月16日

宗祖報恩講法要・永代経法要（16日のみ修行予定）

11月16日

会報部会（会報の件）

令和7年

1月1日

門信徒元旦礼拝

2月4日

第6回門徒僧侶研修会（釧路組研修部・仏壮部合同）

3月20日

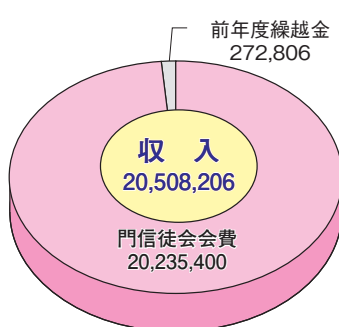
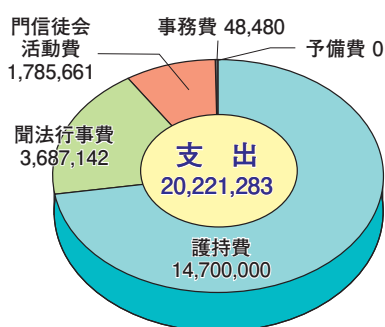
春の彼岸法要

令和6年度 門信徒会 定期総会

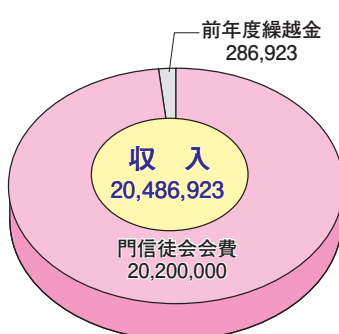
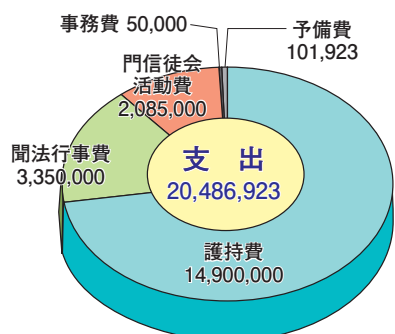
五月十六日、門信徒会定期総会が会員二十名の出席のもと、本行寺にて執り行われました。議題は令和五年度の活動に関する報告と収支決算の報告。また、令和六年度の活動計画と予算案についての説明がありました。住職からの説明にありましたが、コロナ禍から活動内容が変わってきているものの、以前の行事に戻りつつあります。今後ますます皆様の積極的な参加を願ひし、活気のある行事にしてゆきたいと思っています。行事予定及び決算予算は次のとおりです。

本行寺門信徒会会計（単位 円）

【令和5年度決算】総額 20,508,206円



【令和6年度予算】総額 20,486,923円





浄土真宗本願寺派

HOKKAIDO
KYOKU

北海道教区教務所

北海道教区 親鸞聖人御誕生850年・ 立教開宗800年 慶讃法要

企画部 部長 大森 一道

本年5月19日、「北海道教区 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年」を迎え帯広別院にて執り行われた慶讃法要に本行寺門信徒26名で参加してきました。

今回の法要参加を門信徒会の事業である遠足として企画しました。

前日18日の午後1時に本行寺を出発し一路帯広へ。最初に向かったのは「帯広ばんえい競馬場」です。ばんえい競馬は皆さん何となくイメージできますが、実際に見たことがある方は少なく、さらに馬券の購入も初めてという方も多かったのですが、事前にバスの中で配った競馬新聞を真剣にみて予想している方もいました。敷地内には売店やミニ動物園、馬の資料館があり馬券を買わず

とも楽しめましたし、目の前で行われるレースの迫力に皆さん盛り上がっていました。

そして夜は美味しい食事とお酒を皆さんで楽しみ懇親を深め、大変楽しい一日目を終えました。

翌日は朝9時30分にホテルを出発して「紫竹ガーデン」へ。好天に恵まれ、炎天下でのガーデン散策は熱中症を心配するほどでした。その後、昼食のため帯広市内へ。帯広といえはやつぱり「豚丼」。皆さんで食膳のことはを唱えて美味しくいただきました。

さて、いよいよ慶讃法要に参加するため帯広別院へ。今回の法要は、帯広別院の他、札幌別院、小樽別院、函館別院の4カ所をオンライン中継で結び、各別院での様子や参加者の感想などを共有するという新しい試



みがあり、札幌別院（輪番 宇野哲哉）様のご挨拶を同日同時刻に聞けるなど、法要案内チラシに書かれていた「はなれていても、こころはひとつ」との言葉を実感することができました。コロナ禍による大変な時期もありましたが、その苦労がこの様な変化（進化）をもたらしたと思います。

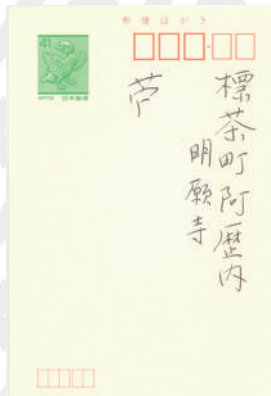
これからの厳しい時代、私たちの心の拠り所である本行寺を守っていくには、時代に合わせたルールや手法の変化が必要です。そうすることで御仏の変わらぬお教えを聞き広めることができると思います。

今後もこのような楽しい企画を通して本行寺門信徒会の結束を深めるとともに、その輪を大きくできるように企画部としても頑張りますので皆様のご協力をお願いいたします。





本行寺院内の集合写真 昭和52年1月1日撮影



書き損じた宛名

本行寺歴史探訪

第五世弑也住職絶筆のハガキ

—その25—

「遍照十方」編集委員
福田 昭南

今、私の手許に一枚のハガキがあります。このハガキは平成四年、弑也住職がご往生される数日前、病院のベッドで法友の阿歴内、明願寺の御堂住職（当時）宛に書かれたものですが、本文には自らの詩文を載せ、宛名で書き損じて結果的に投函されることはありませんでした。後日、幸坊守（後の第六世住職）の話によれば、弑也住職から代りのハガキを頼まれ翌日持参したところ、その時はすでに書く気力がなかったとのこと、このハガキはまさに弑也住職の絶筆となったものです。

ここに認められた詩文は次の通りです。

仰いで

遙かに望む

阿寒の山は

父にて在すか

俯して

眼下に抜がる

太平の洋は

母にて 在すか

父あり 母ありて

いま ここに 我あるを知る

先なる人の

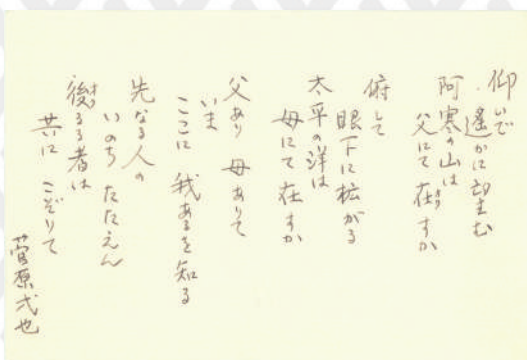
いのち たたえん

後るる者は

共に こぞりて

菅原 弑也

ここには、師の父、母に寄せる思いと自らの心情が切なく綴られています。病院に残されたこのハガキは、のちに幸坊守の手で明願寺に届けられ、弑也住職の意思は遅れたものの無事伝えられることになりました。弑也住職が病室のベッドで衰弱する体力、気力と闘いながら「辞世の辞」ともいふべき詩文を書き、これを明願寺の御堂師に宛てたことにお二人の深い因縁を感じずにはいられません。



絶筆となった弑也住職の詩文

弑也住職と幸坊守、そして御堂住職と寿子坊守、歳の違いこそありますが、時を同じくして共に本行寺の寺庭に育っています。特に御堂師は菅原家と同じ大分県出身で先々代のミネ坊守、先代のワリ坊守とは同郷（中津市）です。若い頃から本行寺の衆徒として籍を置き、弑也住職とともに本行寺の繁栄に尽してきました。こうしたことから、坊守を含めた四人の関係は家族的な強い絆があったものと思われます。

この度、御堂ご夫妻からこのハガキを提供されましたので、本行寺の歴史のひとつとして、大切に保管したいと思います。

因みに、今年は弑也住職の三十三回忌の年、命日の八月二十九日もまもなくです。この節目の時に、弑也住職がめざした本行寺の姿、そして門信徒のあり方に思いを寄せてみるのはいかがでしょうか。

啄木資料館通信

笠置シズ子さん
来釧の謎を追う

本行寺啄木資料館 館長

北 畠 立 朴

令和6年5月29日付の北海道新聞に『笠置シズ子さん来釧の謎』が大きく報道された。報道の原点は啄木資料館に展示されている、近江ジン



さんの「十三回忌記念写真帳」にある。その中に(15) 知人岬にて左より渡辺はま子さん、淡谷のり子さん、服部良一さん、ジン、笠置シズ子さん、服部夫人、道新堺記者、昭25年と書かれている。当時の新聞にこのメンバーが来釧されたことは一行も書かれていない。道新の堺記者が同行して知人岬までご案内しているが記事にならないことが不思議でならない。当時としてはそうそうたる人物の来釧が極秘のごとく扱われている。

もちろんのことであるが本行寺を訪ねた記録もない。

弑也ご住職がご存命のころテレビ朝日の番組「誘われて二人旅」に啄木ゆかりの歌留多寺を女優山田五十鈴さんと星由里子さんが訪ねられて歌留多を行ったことがある。その数年後再び「誘われて二人旅」で女優の長山藍子さんと水野千夏さんが啄木資料館を訪ねられた。

写真の中に近江ジン(小奴)さんが写っているのはなぜだろうかと考えてみた。



近江屋旅館の女将だから紹介されたのだろうか。このころは既に啄木の恋人として著名人扱いされていた。昭和26年には『女一人大地を行く』の撮影で来釧した山田五十鈴さんが近江屋旅館で近江ジンさんとお会いしている。昭和23年2月には「われ泣きぬれて」の映画も公開されている。また、昭和29年6月には「雲は天才である」も映画化されている。釧路時代には必ず啄木の恋人として登場している。

近江ジンさんは最後まで啄木の恋人であることを否定しているが、今でも多くの啄木研究者は恋人として研究している。写真6人はわざわざ小奴さんにお会いして啄木の話を聞いたのだろうか。時代の流れとともに記憶も薄れてしまう。

❖ ●お知らせ● ❖

◎ 聖徳太子講例大祭

昨年の会報でもお知らせいたしましたが、聖徳太子講の皆様が聖徳太子のご命日にお祭りを開催しております。釧路で一番遅く開かれる盆踊りに是非参加下さい。

盆踊り 8月21日 19時より

本行寺境内



◎ 報恩講について

一年で一番大切な法要です。法話を聞きにお越し下さい。

10月16日 11時より

◎ 元日礼拝について

1月1日 朝7時より 本堂
皆様で清々しい一年の始まりを迎えましょう。



令和六年度 第一回本行寺総代会並びに 種市総代叙勲祝賀会

六月二十六日、本行寺総代会が寺院役員および各総代十四名参加で執り行われました。

議題は令和五年度宗教法人本行寺の現況及び収支決算書の報告。次年度予算案と主要行事その他の報告がなされ、承認されました。

また、門信徒会会長、責任総代を務められている種市顯治さんがこの度、瑞宝双光章を受章され、出席者一同で同席された奥様とともにお祝いをさせていただきますました。

喜寿を迎えられた種市会長にはこれからも益々お元気で、お寺の護持発展のためにご尽力いただけたらと願っております。



北海道教区 仏教壮年会

仏教壮年会連盟総会・研修会 参加報告

本行寺仏教壮年会 会長 草 島 守 之



五月十日、札幌別院にて仏教壮年会の総会並びに研修会があり、本行寺からは草島、大森の二名が参加いたしました。

研修会は「寺院と門徒の関係」アフターコロナになつて」をテーマに、本願寺札幌別院 輪番 宇野哲哉師の講演がありました。

現在は、国内外にて大きな被害をもたらした新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せています。しかし、その後遺症は大変大きなものです。寺院においても途絶えていた法要、法事、研修会や会議の機会は復活している一方、コロナ以前のような生活様式には戻っていません。その影響

か、お寺に足を運ぶ門徒の姿が少なくなっているように感じています。そのため、どのようにしてゆくべきかの教えを一部ご紹介します。

「私達は、仏教壮年として、人として、いかに生きるべきなのか」

①ともに歩む仲間、御同朋、御同行とは

お念仏の、み教えは、迷いの中にある私に、自ら見失うことなく、苦難の中に希望を見いだす生き方を示し、その歩みを共にする仲間に出会うことは、み教えをいただくことと同じ意味を持つと親鸞さまは語っています。

②人の痛みに気付く人こそ仏教徒である

仏教徒は何か。それを一言で言うのと「人の痛みのわかる人間になれ」と言うこと。それが「学仏大悲心」。そしてその痛みを共感しながらともに一つの方向にむかうこと。

③念仏者としていかに生きるか

生まれてきてよかった。生きてきてよかったと誰もが思える、自他ともに心豊かに生きることのできる「御同朋の社会」を目指して各教区で活動すること。

この「み教え」を今後、本行寺や鉦路組の取り組みに生かして行きたいと思っています。
以上、仏教壮年会からの参加報告と致します。



恋活パーティ in 本行寺

令和六年六月八日、本行寺に於いて「第五回 恋活in本行寺」が開催されました。今年には男性八名、女性六名の参加をいただきました。

第一部は本堂にて、自己紹介タイムや腕輪念珠作りを行いました。初めは慣れないお寺に緊張している方もいましたが、タイムテーブルを進めていくうちに緊張もほぐれ、打ち解けていったように感じました。夜は懇親会を行い、男女問わず参加者の交流が深まったのではないかと思います。

今年はカップル成立とはなりませんでしたが、会場をお寺で行う事で、参加者の方にも、お寺の行事やイベントに興味をもってもらえたのではないかと思います。

最近ではスマートフォン一つでなんでもできてしまうような時代ですが、実際にお寺に足を運んでもらい、仏さまの教えを通して、さまざまな方が交流を深めてもらえるようなイベント企画にも取り組んでいきたいと思っています。

本行寺 岡西 慶照



法味一言

仏教の世界と接点を持つことによって、不老不死ではなくて「生死を超える」というかたちの中で私たちは今、今日を本当に充実した一日一日を生かささせていただく世界があるのだということを実感させられるわけです。

医学博士 龍谷大学大学院教授 田畑正久著「今、今日を生きる」より

仏教婦人会

本行寺仏教婦人会副会長 濱 容子

令和六年六月二十七日（木）白糠町庶路の浄然寺様に於いて、令和六年度釧路組仏教女性会連盟の総会、研修会が行われました。人数制限が有り本行寺からは婦人部四名と住職と坊守が参加しました。

開会ののち総会が行われ、滞りなく終了。研修会は通常ご講師の先生をお招きしてご法話をご聴聞するのですが、今回は女性会の出席者を五班に分け、各班ごと車座になって語り合うという形でした。

終始和やかに話し合うことが出来ましたが、共通の悩みは会員不足があげられておりました。来年度から（七月に引き継ぎ以降）担当寺院が本行寺に

編集後記

石川啄木とほぼ同時代に活躍した釧路育ちの文学者に野中賢三（一八八七（一九一六））がいる。明治二十七年、五歳の時に家族と共に佐賀県から釧路に移住した。中央の雑誌『文章世界』に頻繁に投稿し、田山花袋らに認められた。その中に「十一月」（明治四十三年）という叙事文がある。

「ショシヤモ好ござんすけえ——」と、長く語尾を引いて、越後女の売声が、町から町へ入乱れて聞こえた。ああショシヤモが漁れた！町の人は

なり、二年間私達婦人会が釧路組仏教女性連盟の運営をして行くことになりました。今回の研修会で共通の悩みであります会員不足は本行寺も同じ状態です。

皆様方にも何かとお力をお借りする事になるかと思いますが、どうかご協力を心からお願い申し上げます。



又、ショシヤモ乾しで忙しくなる。白い雌は腹一杯に子を孕んでゐた。黒い雄は肉が瘠せて平たくなつてゐた。此三寸許りの冬の小鱼！二斗樽に一杯千尾位は入らうか、それが四十銭か五十銭の値段で、家々に買込まれる。

惜しいことに、賢三は肺患が悪化し大正五年、享年二十八歳の若さで死去する。葬儀は本行寺で執り行われた。今晚、柳葉魚を肴に賢三のことを考えながら一杯やりたい。

（広報部 山本悦也）